

## 一緒に歩こう

六年 鈴木 楓

僕は、去年の夏にも柴犬のちくわの事を紹介しました。ちくわが家に来て一年と二カ月が経ちました。ちくわは、皮膚病で特にお腹とあと、しっぽあたりに毛がありませんでした。毛が生えてくるようにご飯を体に合うものにして、水を変えたり、おやつを無添加のものにしたら段々と毛が生えてくるようになりました。今では他の柴犬と変わらない位に立派になりました。ちくわも元氣いっぱいになって喜んでるように見えました。それからは、安心して、普段の日常をおくっていました。しかし、今度は突然散歩を嫌がるようになったのです。時には、畑や、どぶに落ちる事もあったり、家の中の壁や角にぶつかるといったのです。病院に連れて行ったら、網膜剥離だと言われました。しかも、両目ともほとんど見えていないと言われてしまいました。もう、治らない可能性が高く、ショックで辛くて悲しくてどうしようもない気持ちになりました。

まだ一才で、ちくわの人生はまだまだこれからなのに、と、ちくわの生活を考えると涙が出てきました。目が見えなくなってから一人になる事を嫌がります。外に出ようとすると、玄関まで付いて来ます。だからどんな時でも一緒に連れて行きます。目の見えないちくわにとって一人になることが不安で仕方がないことなのだと思います。だんだん見えないことに慣れてきたのか最初は、嫌がっていた散歩も少しずつ行けるようになってきました。違う道を行ってしまったり、ビクビクしてしまう事もあったけれど、嗅覚や聴覚が発達してきて真つすぐ歩けるようになり、全速力で走るようになりました。家の中では障害物を上手によけて歩きます。ご飯と水の場所もしっかり把握しています。そんな事は、僕には真似できません。ちくわの事を本当に尊敬します。

ちくわは、目が見えなくても失うものばかりではないと思うようになりました。生きていくために必要な能力を身に付ける力を持っているんだなと感じました。目が見えなくても幸せだと思ってくれるようにたくさん話しかけて、たくさん触れ合って毎日ちくわと楽しい時間を過ごしたいと思います。

「ちくわ、一緒に歩こう！」